



# 共 育

早いもので、師走も半ばを過ぎました。今年も本校の教育活動にご協力をいただきありがとうございました。

本年度の教育目標「よく考え、進んで取り組み、素直に表現する」子どもたちの姿を、学校生活の様々な場面で見られるように、本校職員はいろいろな仕掛けを作ってきました。その結果、高学年を中心に、よく考え、進んで取り組み、素直に表現できる授業を、自分たちで創り上げようという意識が少しずつ芽生えてきています。また、毎日のランチタイムの終わりに、日々のできごとを取り上げ、全校で語り合う「毎日ほっとタイム」では、自分の思いを素直に表現したいという気持ちを、全学年が持てるようになってきました。

このように、上の学年が頑張っている姿を、下の学年がお手本に成長するという、よい循環がいろいろな場面で見られるようになってきています。そんな中、いよいよ来年度の運動会に向けた鼓笛練習が始まりました。先輩学年に指導してもらいながら準備を進めることで、少しずつ進級の心構えもつけていってくればと願っています。

さて、本号では12月3日(金)に参加したある研究会でお聞きした、元星稜高校野球部監督 山下智茂氏のお話を紹介します。

## 演 題 「心のキャッチボールを大切に」

山下先生は、自分の師は母親だというお話から始められました。

故郷を離れ、大学に在学中に挫折を味わい帰郷したとき、行商の担ぎ棒の両端に重い魚の箱を付け、小さい体でそれを運んでいた母の姿が今でも忘れられない。子どものために身を粉にして働く母の姿は何をかいわんや。弱音を吐いた自分を恥ずかしく思い、学校に帰ったというお話でした。

現在でも、子どもが親の思いや苦勞を目の当たりにすることは、なかなかないのかもしれませんが、でも、その姿が教えるものは計りしれないということなのでしょう。

山下先生はまた、人一倍の努力を自分に科すと同時に、数々の出会いに支えられて、大きな夢を実現してきたこれまでを振り返って、人との出会いの大切さを語ってくださいました。

元プロ野球選手で昨年、国民栄誉賞を受賞した松井選手との出会いのお話の中で、彼には読書の素晴らしさを知り、読書を通して人間としての価値を高めてほしいと考えられたそうです。そんな思いで本を読む習慣をつけるように、松井選手に指導したということでした。山下先生が野球だけを教えるのではなく、人間教育に力を注いだといわれるゆえんがそこにあるように感じました。

お話の中で、演題にもなった「心のキャッチボール」の上達法5つのポイントを教えてくださいました。

一つ目は、相手の胸元にボールを投げること。これは、思いやりの心につながります。

二つ目は、投げ損ねたら「ごめんなさい。すみません。」が言えること。これは、マナーの意識につながります。

三つ目は、暴投したら、すかさずボールを取りに走ること。これは、申し訳ないという思

いを行動で示すことにつながります。

四つ目は、投げるとき受けるとき、必ず声をかけること。これは、相手を認める、相手に敬意を表することにつながります。

五つ目は、叱られ方は人の本質につながるということ。

叱られて「帰る」のは四流

叱られて「ふてくされる」のは三流

叱られて「下をむく」のは二流

叱られて「ありがとうございます。」と言えるのは一流 だそうです。

この五つ目をさらに深めて、感謝する心が強ければ強いほど、人には幸福がやってくる。

叱ってもらえる喜びを感じられるかどうかで、人間の価値が決まる。と話されました。

キャッチボールと聞いて野球のお話かと思っていましたが、内容は人間が生きていくときの心構えに通じる貴重なお話でした。

さて、本校でも「思いやり」や「感謝」を日々の学校生活で感じる時間を設けています。

それが、朝の「先あいさつレンジャー」や「感謝シマット」「黙礼」などです。学校へ登校してくる友だちに元気を与える率先したあいさつや、登下校時「感謝シマット」で、学ぶことや学校に対しての「礼」をつくす態度、そして授業開始、終了時の「黙礼」で心落ち着け、授業に臨む姿勢を作る行いなどです。「行動」は心の表れです。行動と心が一体となって、その意義が理解できた時、瑞穂小学校の一員としての誇りが生まれると考えています。

こうした行いに加え、2学期には「瑞穂カストーディアル」活動が始まりました。「カストーディアル」とは、東京ディズニーランドで見られる園内を清掃する係の方の名称です。もともとは「管理する人」を意味する言葉だそうです。瑞穂小学校では、このカストーディアルの名を借りて、自分の学校をきれいにする心を身につけてほしいと願い、「瑞穂カストーディアル」を開始しました。

本校のカストーディアルは環境委員会が呼びかけ、いつでもだれでも、気が付いたときに校舎の中をきれいにする行動が取れるよう、廊下の要所にほうきとちりとりを設置しました。

秋から冬にかけて、中庭に舞い散るたくさんの枯れ葉に気づき、多くの瑞穂っ子がカストーディアルとして活躍してくれました。



東京ディズニーランド  
カストーディアル



瑞穂カストーディアル



先日、一本の電話がかかりました。それは、本校の開校当初にこの学校を卒業した子どもたちが、成人式を迎え、在学当時に運動場に埋めたタイムカプセルを掘り起こしたいというご連絡でした。  
少年老い易く、学成り難し  
一寸の光陰軽んずべからず…

時の経つのは早いものと、しみじみとした思いを感じると共に、当時の瑞穂っ子はタイムカプセルにどんな夢や希望を詰めたのだらうと、標柱を前に思いを馳せるのでした。